

人生ハンド仏句

第147号

H. 26. 6. 1

(毎月1日発行)

お題目の光明

住職 谷川寛俊

信仰の第一歩は「感応道交（かんのうどうきょう）」にあります。感応道交とは、私達衆生に《感（求める心）》があれば、神仏は必ずこれに《応じて下さる》という意味合いです。

《感》すなわち「求める心」は、日々の生活の苦悩の壁と向き合った時などをはじめ、それに伴う寺社への参拝や、宗教儀式への参加など、つまりは信仰という《縁》によって培われるものです。

人間性の向上が叫ばれながらも、日常生活の繁忙に心の余裕を失い、肝心要の信仰どころではないという昨今の風潮の中、私達は先ず原点に立ち返り、この《縁》というものを改めて見直す心構えが必須だろうと思います。

日蓮聖人のご在世当時でさえ、この「お題目（南無妙法蓮華經）」の何たるかを少しも理解しないで、ただ唱えるだけでは、何の意味もないのではないのか？という疑問を持つ者が大勢いました。日蓮聖人はこうした疑問に答えて、次のような分かりやすい譬喩で諭されました。「たとえば梅干の酸っぱい話を聞くと、まだ食べていないのに口の中に唾が潤ってくるように、法華經のお題目を口に唱えただけで、身を益（やく）すことになる。なぜなら、お題目の中には、釈尊一代の八万の聖教が全て収まっているからである」と。また「赤ん坊が、母の乳を含むに、その乳の味を知らなくても、口にする事により、自然と赤子が成長していくのと同じ様である」とも仰っておられます。

お題目の持つ難しい教理や教学がよく理解できなくても、一心に仏様を信じてお題目を唱える事ができる人は、その身に即して仏身を成就することができるのであります。

「人生ハンド仏句」

と打ち込んで頂けば、ホームページにつながります。

編集・発行
玉蓮山 真成 寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268

日蓮宗の信仰の基本は、「二心に信じてお題目を唱えること」であります。「信心」とは、言うなれば「心」にシヤワーを注ぎ、心の垢を洗い流して、身も心も清浄にすることであります。それによって、掛け替えのない己の尊い人生を輝かしく生きる事ができるものと思います。

それにはまずお寺参りから始めるのも良いでしょう。お寺へお参りになり、手を合わせ、一心にお題目をお唱えする時、言うに言われぬ穏やかな気持ちになる事を、どうぞ実感してみてください。

ところでお寺とは、「十」「一」「寸」と書きます。現在、自分のしている事や心構えなどが、人として「十（プラス）」か「一（マイナス）」か「一寸（ちよつと）」考えてみる所なのだそうです。日蓮聖人は『崇峻天皇御書』の中で、「教主釈尊の出世の本懐は人の振舞にて候けるぞ。賢きを人と云ひ、はかな

きを畜（ちく）という」。つまり、お釈迦様の説かれた教えの最終目的は人としての生き方、振る舞い方にあります。「十（プラス）」に生きていける智慧を持つているのが人であり、「一（マイナス）」の考え方からなる生き方をしてる姿は畜生の様相であると喝破されています。

自分の考え方や行動が、道にかなっているかどうか、どうぞお寺にお参りになり、心を落ち着けて神仏様のお顔を拝しながら、お題目をお唱えし「ちよつと」考えてみて下さい。あなたの求める心に、神仏様は必ずお応え下さいます。

妙法五字の光明に照らされて、生き甲斐のある、明るい人生が送れますように、お互い精進してまいりましょう。





お知らせ

◎大黒尊天祭

六月二十九日(日)

○ご法話

午後一時半

○大黒尊天法味言上

並びに修法祈祷

午後二時半

参詣者お一人お一人への特別御加持祈祷。また、福引・じゃんけん大会と盛り沢山。
今年の特別賞の行方は？
大黒様も年に一度の里帰り！
お待ち申し上げます。

◎毎月一日祈祷会

午前五時から

早朝のお参りは気持ちの良いものです。
ご祈祷を受けて、霊神符（お守り様）を頂きましょう！

◎水子供養会

毎月十三日 午後一時半より

◎唱題行脚

毎月二十八日

午後一時半より

先月の参加者
谷川寛敬・土居可久子・伊藤宗治・
高円富美子・谷川まり子・谷川知世

古いお塔婆について

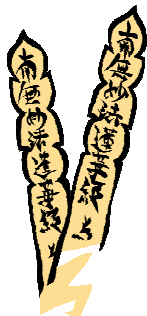
各家、又は霊園等のお墓に建立されている古いお塔婆は、

七月二十日までに、

お寺の墓地入口までお持下さい。

閉眼の御供養を申し上げます、

お焚き上げをいたします。



本堂屋根改修工事もお蔭様で
順調に進んでおります。

ご寄進賜りました皆様には、
厚く御礼申し上げます。

尚、毎朝のお勤め時に工事の無
事完成とご寄進頂いた方々の家
内安全、身体健全を御祈願致し
ております。

・二十万円……………一人

・十万円……………十人

・五万円……………九人

・三万円……………十三人

(二回目含む)

・二万円……………十六人

(二回目含む)

・一万円……………三十一人

(三回目含む)

五月三十日 現在
(尚一層の御協力をお願い
申し上げます)